



# 「庭に小鳥を」カナダ版 ジジユウカラガニ5万羽が来る

シャック・マイヤーはカナダに住む信仰熱く篤篤だった。ある日、自宅近くのリリ湖畔で狩りをする人間とガガが一緒にいるのを見て感動した。

島は、安全で、穏かな

い人間を見た。

彼は話を捨て、ガガを友だちになろうと決心する。

1904年 ジャック39歳

獵師仲間は笑ったが、彼は

庭に池を掘り、ガガ来訪を待つ。

4年目の秋、いつもの家の

上空に飛びまわだけた

ガガの姿が池に来た。

与えた玉子を食べ、春帰った。

翌年、350羽に増えた。

年にガガばかりの鳥渡渉が増えて、

ジャックは池をひらげ、

木を植え、いまのサンク

チコの原點が生産地。

翌年、3500羽に増える。

4年目の冬、島に飛来する

ガガの数が急増した。

ジャックは、広大な彼の庭

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と

いうジャックは、10万羽もの

ガガ・カモにバーディングをほ

くり始めた。神を信じて』

島は北の民族

に捕えられ、データは土地の

官教師によてもたらされた。

彼を感じさせた。

カナダ・アメリカの渡り鳥

約1916年の基

本データの貢献大きい。

「神のためにやつてんだ」と  
いうジャックは、10万羽もの  
ガガ・カモにバーディングをほ  
くり始めた。神を信じて』

法人会  
日本鳥類保護連盟  
サントリ一株式会社

トリヒト・友だち  
豊かな自然

■取材協力・財日本鳥類の会  
環境省  
伊豆諸島の鳥類保護活動

の環境保全活動  
伊豆諸島の鳥類保護活動